



週末の小さな旅に詰まった 限りなく贅沢な「お家時間」

日常と非日常の空間を、どこでもドアのようにつなぎ
遊び心を満たしてくれるデザイナー集団 Beハウス



8坪 TINY HOUSE
 Tiny House



おうちで過ごす時間が増えている今、Tiny Houseに注目が集まっています。Tiny Houseとは、直訳すると「小さな家」。コンパクトな空間で、趣味を楽しんだり、リモートワークに活用したりと、アイデア次第で空間の可能性は無限大。施主の憧れを叶えるオーダーメイドの家づくりに定評のあるBeハウスが提案する「8坪Tiny House」は、その名の通り変形敷地に遊び心を詰めた新しい家づくりです。

つくばの住宅街の一角に誕生したTiny Houseのコンセプトは、日常を豊かにしてくれる大人の秘密基地。BBQやグランピングが楽しめる広いデッキや、ロードバイクの整備や天体観測、そしてなんとプールやサウナ、屋外ジャグジーまで！「あったらいいな」を詰めた、日常を贅沢に楽しむ仕掛けがいたるところに施されています。



もともと社員の保養施設として使うことを目的にしていたため、建築士である代表の飯田高さんが「自分達が週末泊まりに行きたくくなる家」のイメージを具現化した設計になっています。床面積4坪と12坪、2棟のTiny Houseが隣り合わせに建てられていて、どちらの間取りもモダンな片流れの屋根をいかしたロフト付きの平屋タイプです。コンパクトな空間なのに開放感を感じさせる設計の巧みさはもちろん、デザイン性や快適な温熱環境も備えられているのはBeハウスならでは。広い敷地がないと平屋は建てられない。小さな家は狭い家。そんな固定概念を覆す8坪Tiny Houseは、建てる場所を選ばないのも大きな魅力。たとえば自宅の小さな庭にも、どこでもドアのように夢の異次元空間をつくることを叶えてくれます。

「豊かな時間」をデザイン

つくばの8坪Tiny Houseは、見学はもちろん宿泊体験も可能です。宿泊体験の受け付け窓口として、宿泊希望者と宿泊先の提供者を仲介する民泊Webサービス「エアビー」に登録したところ、予約で埋まってしまいう状態に。週末に泊まりで遊びに行きたい家というコンセプトが、コロナ禍での家族レジャーの需要にぴったりとハマったようです。「ちょっと日常を離れて趣味に没頭する時間を満喫したいという気持ちはきっと誰もが持っているもの。コロナ禍以前は旅行イコール観光地へ行くというスタイルが当たり前でしたが、家で過ごす時間の大切さが見直されるように



代表取締役社長
飯田 高さん

なり、どこへ行くかではなく『どんなふうに時間を過ごすか』が旅の新たな目的になっているように感じます。ビジネスとして考えず、好きなコトを集めたのが功を奏したと飯田社長は分析されています。

Tiny Houseが建つのは住宅街の一角で、見晴らしの良さを除けば観光的な要素はありません。それでも週末の予約は首都圏からのお客様で数カ月先まで埋まっている。その目的は、そこに行けば贅沢な時間の過ごし方があるから。きれいなキッチンで料理し、広いデッキで優雅にBBQを楽しんだ後はリビングで映画鑑賞やスポーツ観戦。ワイド



スクリーンが完備されたホームシアターで、臨場感たっぷりの映像が楽しめます。オープンエアのジャグジーバスやプライベートサウナでリフレッシュしたり、夏は巨大プールで遊んだり、楽しみ方は無限大。夜はロフトで山小屋気分を楽しみ、テントを張ってアウトドアを満喫する、この小さな空間にお家時間の提案が凝縮されています。

さらに新たなスタイルのTiny Houseを佐賀に建築中です。挑んだテーマは「まちの中の異次元空間」、周囲の住宅か

らの視線を閉じて開放された空間がこれまで設計出来るか。2階リビングの頭上にはガラス張りの大きなトップライトが広がり、隣家の視線を気にすることなく、広がる空との一体感が楽しめるデザインが圧巻に。もちろんBBQやサウナも楽しめる遊び心が盛り込まれています。都市部や狭小敷地でも「豊かな時間」を創り出せるTiny Houseを、みなさんも体感してみてください。この夏オープン予定！



マーケティング部 部長
小林 さん



